

Living the Lotus 8

Buddhism in Everyday Life

2025
VOL. 239



立正佼成会ハワイ教会、盆踊りイベントを開催 先祖に感謝し、地域と法縁を結ぶ



Living the Lotus Vol. 239 (August 2025)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537

東京都杉並区和田2-7-1 普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224

E-mail: iiving.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 赤川 恵一

編集チーフ: 三川 紗知

校閲者: 小坂 和正、菊池 克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

ただ「ほめる」だけ 庭野日鑑 立正佼成会会長



人を育てる基本は

私が、著作などを通じて学ばせていただく教育者のなかのお二人に、共通する理念があります。それは、お説教をするのが教育ではなくて、教育とは「ほめること」だという考えです。そのお一人である森信三先生は、教師が口を使うのはほめる場合だけ、とまでおっしゃっています。

たとえば、学校の下足箱で靴のかかところが揃えられていなかったら、生徒の見えていないときになおしておくのが教師の仕事であって、そうすると下足箱の靴のかかところが少しずつ揃いはじめるので、そのとき、教師はそれをほめる。これが教育であり、指導だということです。

また、平澤興先生（元京都大学総長）は「教育とはいかに相手をほめるかの研究である」と明言され、「なによりも大切なことは、人を生かすことである。そして、その人に喜びと勇気と希望を与えることである」（『生きよう 今日喜んで』致知出版社）と、ほめることの意義を述べておられます。

私は、これまで繰り返し「人を植える——思いやりの心をもった人を育てる」「未来を担う人の心を涵^{うるお}し、育てる」など、人を育てる大切さをお伝えしてきました。それは、人間一人ひとりの心ばえの美しさが美しい地球を^{まも}護り、そこで調和し生きるすべてのものの幸せにつながるからですが、教育の専門家であり、宗教や哲学にも通じたお二人が、人育ての基本となるのは「ほめること」だということです。

平澤先生には「あなたは、あなた自身が知らないところの、数倍のかくれた素晴らしいものを心の中にもっておる。／とにかく、自信をもって堂々とおやりなさい」という言葉もあります。これが教育的な意味でのほめ言葉だとすれば、人を育てるとは仏性^{ぶつしょう}の自覚^{うなが}を促すこと、そしてほめるとは、その相手の仏性を信じることにように私には思えます。

信じて拌む

とはいえ、ほめるというのは難しいものです。むしろ、私たちはつい叱^{しか}ったり小言をいったりしがちではないでしょうか。ただ、効果がないことを意味する「彼岸^{ひがん}過ぎての麦の肥^{こえ}、二十^{はたち}過ぎての親の意見^{ことわざ}」という諺のごとく、叱って育てることがなんとか可能なのは三歳くらいまでで、それ以上の年齢、ましてや大人になってからは、いくら叱ったり説教したりしても、よほど身にしみないと大切なことは伝わらないのです。

では、どうすればいいのか——「やってみせ、言って聞かせてさせてみて、ほめてやらねば人は動かじ」（山本^{いそろく}五十六）の言葉どおり、叱るより先にこちらが手本を見せ、それができたら称えることで相手の心が動くのだと思います。ちなみに、この言葉の後段には「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば人は実らず」ともあります。やはり、相手の仏性をとことん信じて拌む姿勢が、人を育てるうえでは大切なのです。また、ここには「あなたのことが必要なのだ」という愛情や信頼も見てとれますが、自分の価値に気づかせ、生きる喜びと希望や勇気を与えるそうしたふれあいは、同時に「私もこの人のようにになりたい」と願う心に導くものです。

教会長を経験したある方は、「信者さんから聞かせていただいたお話から、私が何を功德^{くどく}として頂戴^{ちょうだい}できたかを伝えることが、その方をほめ称えること」といいます。これは、自他の仏性を信じて拌みきれるよう、自らの心が素直でないと、相手をほんとうにほめることはできないという大事なことを教えています。

そのような日々^{しょうじん}の精進をとおして人を育て、自身もさらなる人間的成長をと願う私たちを、仏さまもまた、いつも励まし、おほめくださっているはずです。

（『佼成』2025年8月号）



Spiritual Journey

仏さまの教えに沿って自分を変える努力で人生は変わる

インド・デリー支部 シミ・ハンダ

立正佼成会には、いつごろ、どのような動機で入会されたのですか？

私は2004年10月、知人に誘われて立正佼成会デリー支部(当時・デリー・ダルマセンター)に入会させていただきました。入会の動機は、自分の精神性を成長させたいという願いからでした。そして、そう思うようになったのは私のこれまでの人生が大きく影響しています。1965年にニューデリーで生まれた私は、両親に甘やかされて育ったせいで幼い頃から短気で自分勝手な性格でした。その後、24歳で結婚した私は二人の息子に恵まれましたが、私の性格のせいで息子たちには精神的にとってもつらい思いをさせてしまいました。1998年には子宮の手術を受け、また骨粗しょう症も発症しました。2001年に交通事故で脚を骨折し、2003年にはがんと診断され、さらにその年に最愛の母を亡くし、人生で最もつらく悲しい経験をしました。そんな出来事が続き、私は《どうしてこんなにも次々と不幸に見舞われるんだろう》と自分の運命や境遇を嘆きました。

しかし、立正佼成会に入会后、当時のプラディープ・サクセナ支部長さんや齋藤光央南アジア伝道区長さんとの出会いをとおして、私の人生は一変しました。法華経や立正佼成会の教えを一生懸命学ぶ中で、すべての出会いや出来事をポジティブに受け止めることに気づいたのです。《自分の不幸や不運を人や環境のせいにしてはいけません。自分が変わることによって人生を明るく前向きに歩んでいくことが大切なんだ》と、私自身の生き方を切り替えることができました。その後、人間関係の軋轢があつて、数年間、修行のブランクはありましたが、2014年にデリー法座の主任のお役をいただき、2020年には公務員を早期退職し、2023年3月からはデリー支部長という大役を拝命し、サンガの皆さんと共に日々新たな気持ちで精進させていただいています。これからも仏さまの教えによって救われた感謝を忘れず、法華経を人生の道しるべとして、揺るぎない決意をもって菩薩道を歩んでいきたいと思っています。



デリー支部道場で会員を前に話をするシミ・ハンダさん

現在、支部長のお役をされていて、いちばんの喜びを教えてください。

それは、なんと言っても悩みや苦しみを抱えていた会員さんが法華経や立正佼成会の教えによって救われ、笑顔で幸せになっていくお姿を目の当たりにする時に最も喜びを感じますね。その会員さんたちの救われたお姿をとおして、まるで苦しみの心に蒔かれた仏さまの慈悲の種が法の雨に育まれて、法による歡喜の花を咲かせているように感じます。

Spiritual Journey

デリー支部では現在、どのような活動を行なっているのですか？

日常的には朝夕、デリー支部道場で読経供養をして、昼間は主に法座修行や法華經の勉強会を行なっています。また、家庭教育講座の開催や老人ホーム慰問などの社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。特にデリー支部道場周辺には貧困のために教育の機会に恵まれず、読み書きのできない子どもたちが大勢います。そうした子どもたちのために学用品や洋服を贈呈したり、また週に3～4回、青年リーダーが支部道場や近くの公園でヒンディー語や英語の勉強を教えたりしています。私たちは、子どもたちの心に生きるために必要な知識とやさしさを育むことこそ、最も尊い慈悲の行ないの一つであると信じています。

法華經の中で心に刻んでいる教えはありますか？

私は以前、薬剤師の経験がありましたので、法華經の藥草論品の「三草二木の譬え」に興味を持っていました。この世界には大小さまざまな草や木があり、表面上には違いがあるように見えるけれど、雨は平等に降り注ぎ、草木はそれぞれの性質に応じてふさわしい成長を遂げ、美しい花を咲かせ、実を結ぶということが説かれています。それと同じように私たち人間も能力や素質などの違いはあっても、みな平等に仏さまの教えを受けて悟りを開くことができると教えてくださっています。誰もがみな平等に仏性を持ち、本質的には尊い存在であるにもかかわらず、多くの人がそのことに気づけないでいます。その結果、自信が持てず、卑屈になり、人生をポジティブに生きることができないように感じます。だからこそ私は今、支部道場周辺の子もた



2022年、デリー支部で行なわれたご本尊拝受式のあと、ともに拝受した会員たちと(前列左端がシミさん)



2024年、立正佼成会創立86周年を祝って、デリー支部の会員とケーキを切るシミさん(右から2番目)

ちに「三草二木の譬え」をわかりやすく伝えながら、仏さまの限りない慈悲の雨のもと、人と比較する生き方ではなく、自らの個性や特性を生かして、それぞれが美しい花を咲かせて、かけがえのない人生を輝かせてほしいと心から願っています。

立正佼成会の教えの中で大事にしている教えはありますか？

開祖さまは16歳の時、東京へ向かう夜汽車の中で「六つの誓い」を立てられ、その中に「他人と争わぬこと。どんなひどい目に遭っても、神仏のおぼしめしと思って辛抱すること」というお言葉があります。私はいつもこのお言葉を心に留め、これからの人生において、たとえどんな苦難や逆境に遭遇したとしても、「この困難が自分を成長させてくれる。きっと仏さまが守ってくださる」と考え、すべては仏さまのお手配と受け止め、仏さまの光に照らされながら修行していきたいと思っています。

立正佼成会のどういうところに魅力を感じていますか？

日頃、法座は立正佼成会の「いのち」と教えていただきますが、私自身の体験を踏まえて、法座は仏さまの教えに基づくものの見方、考え方をお互いに学び合い、人格を磨きながら向上させる素晴らしい修行だと受け止めています。立正佼成会に入会して間もない頃の私もそうでしたが、人前で自分の悩みを語り、過ちを認めることはとても勇気が必要なことです。人は相手が自分の言いたいことに耳を傾

Spiritual Journey



創立記念式典のあとデリー支部の会員と(前列中央がシミさん)

けてくれ、自分の考えをわかってくれると思うと、安心して自分の気持ちを口に出すことができます。法座はまさにサンガの皆さんが人の悩み苦しみを自分のことのように真剣に受け止め、慈悲の心で寄り添ってくれます。そのサンガの皆さんの支えや励ましのお陰で、安心して自分の気持ちをありのままに吐露することができるのだと思います。そして、仏さまの教えに沿って自分を変える努力をすることで人生が変わり、自信と勇気を持って仏さまの道を歩むことができます。その意味でも私は法座がいちばんの魅力だと思っています。法座という聖なる空間の中で、法は生き生きと息づき、多くの人たちとの交流によって共感を覚え、私たちの心は変化し、つながりの中で花開いていくと信じています。

最後に今、願っていること、また今後の修行目標を聞かせてください。

私のいちばんの願いは、これからもデリーにおいてサンガの皆さんと力を合わせて、仏さまの教えの要である智慧と慈悲を勇気を持って多くの人々に伝えていくことです。ま

た、こうした布教活動とともに次代を担う子どもたちのための教育支援を継続して行ない、デリーおよびインド社会の発展に寄与する社会貢献活動に力を注いでいきたいと思います。そのためにも、今後も仏・法・僧の三宝に深く帰依し、目覚めの光を一人ひとりの心に届けるために、この生かされているいのちを全力で捧げてまいりたいと思っています。

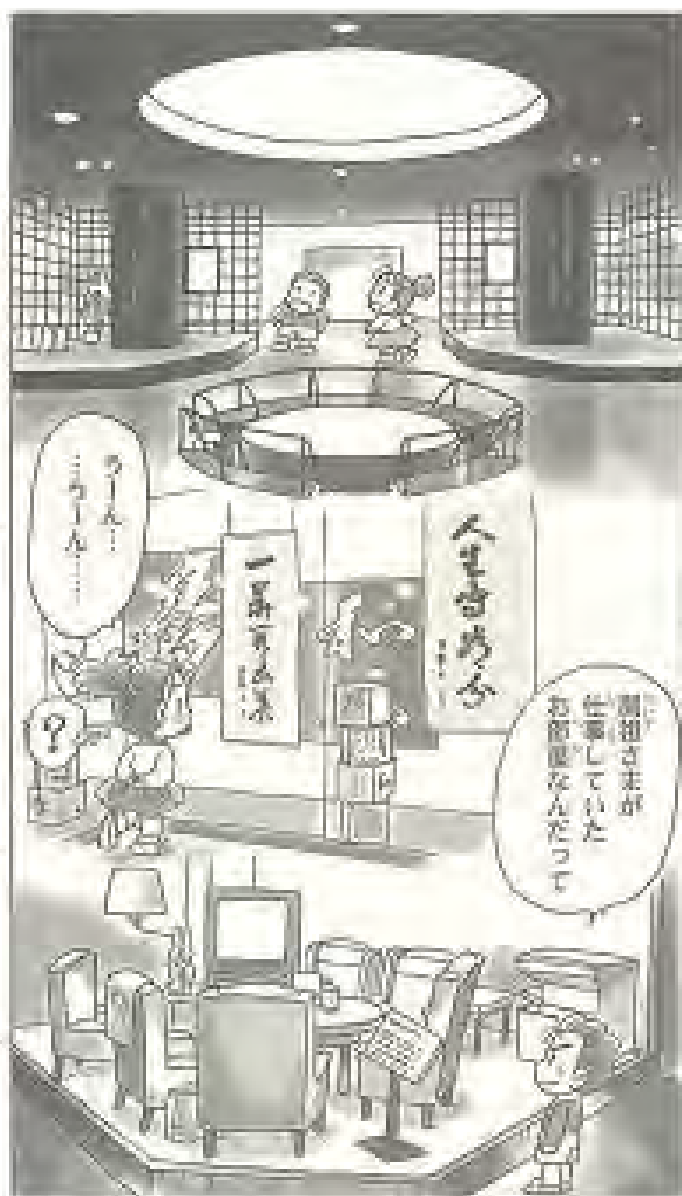


次男の結婚式をお祝いするハンダさんご一家(2023年、右端がシミさん)

まんが立正佼成会入門

立正佼成会の施設

開祖記念館



豆知識

記念館には特別展示室があり、年数回企画展を行なっている。開祖さま、脇祖さまや法華経に関することなど、さまざまなテーマを通して何か気づきをもちかえることのできる空間となっている。入室は法輪閣庭園側から。



「開祖と出会い、開祖に学び、開祖を伝える記念館」として開祖さまの生誕百年を迎えた2006年（平成18年）に開館しました。

館内中央には、開祖さまの原点、生誕地・菅沼の四季を表現した、「シンボルプラザ」が広がり、それを取り囲むように、生涯をたどる五つのステージが展開されています。執務室も再現されており、その中には「開祖にふれる」コーナーが設けられています。

開祖記念館はさまざまな展示資料を通して、一人ひとりの開祖さまに出会える場です。



『まんが立正佼成会入門』は、佼成ショップにて好評発売中です。
<https://www.koseishop.com/>

第二団参会館



立正佼成会本部へ参拝におとずれる会員が泊まる施設が第二団参会館。たくさんの人がいっぺんに宿泊できる大きな建物です。

ロビーには、開祖さまの構想による三大霊山りょうじゆせん（霊鷲山、天台山、比叡山ひえいざん）の陶板壁画がかざられ、開祖さまの銅像が安置されています。陶板壁画には、仏教の原点を見つめ、お釈迦さまのみ心をわが心としてほしいという、開祖さまの願いがこめられています。

豆知識

霊鷲山はインド、天台山は中国、比叡山は日本（滋賀県）にある。霊鷲山は法華経が説かれた場所として知られている。天台山も、法華経がインドから日本へと伝わってくる上でとても大切な場所だ。



仏さまのような気持ちで
法を説かなければこの世は滅びる

立正佼成会開祖 庭野日敬



ところで、初めから上手に「法」を説けるものではありません。やはり、経験が必要です。弓道でも、初めからただの一発で的に当てる人はいません。たいていの人が的外れです。それでも何回も稽古^{けいこ}すると、たまに当たるようになる。それを繰り返して、ビシッと当たることが多くなるのです。

お導きや手どりでも、そうです。法座で多くの人の悩みを聞き、「結び」を聞いて、手どりやお導きを繰り返す。そうしているうちに、顔を見ただけで「あなたは、こういう悩みがあるんじゃないですか」とピタリと当て、「それはね、こういう考え方をしたら、すぐに幸せになりますよ」と、自信をもっていえるようになるのです。



とにかく、説いてみることです。聞こうともしない人もいるでしょう。聞いてもわかってくれない人もいるでしょう。それでも、悲観してはなりません。常^{じょう}不^ふ輕^{きょう}菩薩のように、「あなたは仏になれますよ」と常に呼びかけを続けるところに、自他ともに救われる道が開けるのです。

ところで、お釈迦さまが悟りを開かれたとき、「この深遠な真理を説いたところで、わかってくれる人はないであろう」とお考えになり、「説くべきか、自分の胸一つにしまっておくべきか」と、お悩みになりました。

そのとき、そのお心を察した梵天^{ぼんてん}(古代インドの最高神)が、「ああ、この世は滅びる。正しい『法』を悟った人が、それを説かなければ、この世は消滅する」と嘆き、お釈迦さまの前に現われて「法」を説くことを懇願したのです。

これは初期仏教の「阿含經^{あごんきょう}」で説かれている話ですが、法華經^{けじょうゆほん}の「化城論品」には、この「梵天勸請」について次のようにあります。

「爾^その時に諸^{もろもろ}の梵天王^{ぼんてんのう}、偈^げをもって仏を讃め已^ほつて、各^{おのおの}是^この言^{ことば}を作さく、唯^{ただ}願^ねわくは世尊^{しゅじょう}、法輪^{どだつ}を転じて衆生^{ねはん}を度脱し、涅槃の道を開きたまえ」

つまり梵天は、「世尊がお悟りになった『法』を説いて、人びとを迷いから救い出し、悟りにいたる道を開いてください」と、お願いしたわけです。

ところで、この「正しい『法』を説かなければ、この世は滅びる」という梵天の言葉は、二十一世紀にかけての人類の運命にも当てはまるように思われます。仏法を——せめて「少欲知足」の教えだけでも——世界じゅうの人びとが胸に刻んで実行しなければ、人類は滅亡への道を歩くほかないのです。

立正佼成会のみなさんは、こうした大きな使命を担っていることを自覚し、大いなる情熱をもって布教に精進していただきたいものです。それこそが、一切衆生を救おうという仏さまのお心に沿う菩薩道であると確信します。

庭野日敬平成法話集 1『菩提の萌を発さしむ』P.81-83



Director's Column

法華經が分かるということ

国際伝道部長
赤川 恵一

皆さん、こんにちは。日本では連日、猛暑が続いております。日本の夏は湿気が多く、毎年のこととはいえ体調管理には一苦労です。皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

さて、今月のご法話で会長先生は、「教育とはいかに相手をほめるかの研究であり、なによりも大切なことは、人に喜びと勇気と希望を与えることである」と明言された平澤興先生のお言葉を引用され、「ほめるとは、相手の仏性を信じること」と教えてくださいました。

この一節を拝読しながら、私は開祖さまがかつてご法話の中で、「救われるということは、その人に安心と希望を提供することである」と、救いの定義をお示しくださったことを思い出しました。人が精神的に成長するためには、向上心を促すためのご縁、すなわち「喜び・勇気・安心・希望」といった精神的支柱が必ず必要になるのだと改めて感じます。

開祖さまはご生前、「ご縁を上手に結べる人になることは、法華經の分かった人になるということなんだよ」と、私たちを励ましてくださいました。どうすれば日々の出会いを「思いやりの心をもった人を育てるためのご縁」として受けとめていけるのか。この問いかけを常に自らに発し、今月も目の前の一つひとつの出会いに一所懸命に取り組みながら、即是道場の心で真剣に精進を重ねてまいりたいと思います。



ニューヨーク教会シカゴ支部から、村上佳代支部長さん（中列中央）と
そのご家族ご友人を国際伝道部のオフィスに迎えて（中列左端が赤川部長）



一食を捧げる運動

Donate-a-Meal Movement

こころがよろこぶ。



「一食を捧げる運動」の日本語ウェブサイト。精神、概要、支援している団体からの情報、現地の声、ボランティア活動の様子など、さまざまな情報を掲載しております。

現地の声と実施事業の様子

事業分野: 貧困(飢餓)の解消

事業名: 初等教育の普及(学校給食プログラム)

実施地域: ミャンマー

実施団体: 国際連合世界食糧計画WFP協会(国連WFP協会)

事業内容: ミャンマーでは人口の約37.5%が貧困下で暮らしており、子どもの栄養不足や教育の地域格差が深刻な課題となっています。小学校の入学率は83%ですが、中等教育への進学は半数以下で、特に女子の退学率が高くなっています。こうした課題に対して、WFPは未就学児や小学生を対象に、栄養価の高い学校給食などを提供することで、児童の栄養状態の改善と就学率の向上を目指しています。また、同事業は、保護者や地域の人々の交流促進や、食・衛生への意識向上にもつながっています。

～受益者および活動に携わる方の声～

U DAVIDさん(仮名)(同プログラム支援スタッフ、幼児発達委員会 委員長)

学校給食支援が始まる前は、親が子どもに栄養のある昼食を用意できず、通学が難しい家庭もありました。私たち自身も国内避難民で、収入や食材の確保が困難な状況です。支援により、子どもたちは少しずつ笑顔を取り戻し、清潔や手洗いの習慣も身についています。保護者にとっても衛生や栄養に関する学びの機会となっています。特に困難なこの時期に子どもたちへの重要な支援をしていただき、本当にありがとうございます。

※2021年2月の軍事政権掌握以来、ミャンマー全土で紛争が起き、国民の命が危険にさらされています。子どもたちの命にも危険が迫っていることから、支援対象者の写真をお届けすることが難しい状況です。

事業分野: 貧困(飢餓)の解消

事業名: 家庭菜園を通じた栄養改善プロジェクト

実施地域: ホンジュラス

実施団体: 特定非営利活動法人AMDA社会開発機構(アムダマインズ)

事業内容: 人口の15%が国際貧困ライン以下で生活している同国では、貧困による栄養不良が深刻です。その一方で栄養不良とは対照的に、糖分・油分の過剰摂取や野菜・果物の不足に起因する肥満も増加傾向にあり、人口の約23%が高血圧、約7%が糖尿病を抱えています。こうした状況の改善を目指し、特に貧困度の高い地域において、家庭や学校での野菜・果物の栽培を通じた、栄養バランスの取れた食生活を促進する菜園支援事業を実施しました。

～受益者および活動に携わる方の声～

アレハンドロ・ブリセーニョくん(中学2年生)

このプロジェクトに参加することができてとても嬉しいです。自分たちで畝(うね)を作り、そこで自然な農法で栽培した野菜を食べるのは初めての経験でした。先生と同級生のみんなと協力して作業できたことがとても楽しかったです。本当にどうもありがとうございます。



アレハンドロくん



一食を捧げる運動

Donate-a-Meal Movement

事業分野:教育・人材育成

事業名:ディンベレンゲ地域紛争の影響を受けた脆弱層によるコミュニティレジリエンス向上プロジェクト

実施地域:コンゴ民主共和国

実施団体:認定NPO法人テラ・ルネッサンス

事業内容:2016年以降の紛争で多くの被害を受けた中央カサイ州ディンベレンゲ地域で、女性や子どもたちの命と生活を守り、地域のレジリエンスを向上させるため、診療所の改善、市場などの商業活動の再開支援、パーム油や石鹼づくりの技術研修などを通じた生計支援を実施しました。

～受益者および活動に携わる方の声～

カンバ・トゥアカジカさん

紛争により住んでいた村を追われ、当時2歳と0歳の幼い子どもを抱えて国内避難民となり、劣悪な環境での避難生活を余儀なくされました。その後、兄の住む村に何とか身を寄せ、支え合いながら暮らしていましたが、仕事も食べ物も十分に得られず、最愛の子どもを栄養失調で失いました。その後、支援を受けて石鹼作りの技術を学び、今では私が家族を支えています。今も隣村では紛争が続き、親しい友人や知人たちがその影響を受けながら暮らしています。紛争が終わり、仲間たちとともに穏やかに暮らせる日が一日も早く訪れることを願っています。日本からの温かい支援に心より感謝し、皆様の上に神のご加護がありますようお願い申し上げます。



石鹼作りに励むカンバさん

事業分野:保健・医療・福祉

事業名:HIV/AIDS事業・出生登録事業

実施地域:マラウイ

実施団体:聖エジディオ共同体

事業内容:聖エジディオ共同体が開設した保健医療センターである、DREAMセンターにおいて、血液検査や栄養改善、カウンセリングなどの総合的な治療を無料で実施しています。同事業では特に、母子感染予防に力を注ぎ、現在では99%の子どもがHIVに感染することなく誕生することができるようになりました。また、行政と連携して子どもの出生登録事業も行っています。



医療センターでの診療の様子

～受益者および活動に携わる方の声～

パーサーさん(DREAM保健医療センターアクティビスト)

同事業(DREAMプログラム)との出会いは、2006年、新しいセンターが開設されたときでした。子どもと一緒に訪問し、支援を受ける中でHIV陽性が判明しました。辛い瞬間でしたが、すぐに治療を始めることができ、娘も元気に育っています。娘が健康であることは私にとって一番の喜びであり、皆様に心から感謝しています。同事業は、治療だけでなく、私に希望と新たな目標を与えてくれました。現在は、研修を受け、アクティビストとして活動しています。私の役割は、HIV陽性でありながらも充実した尊厳ある人生を送れること、そして母子ともに健康でいられるための継続的な治療の大切さを他の女性たちに伝え、彼女たちをサポートすることです。このプログラムは私に新しい人生を与えてくれました。アクティビストとしての今の私の目標は、他の女性たちにも、自分たちに未来があると信じてもらうことです。



パーサーさん



一食を捧げる運動

Donate-a-Meal Movement

事業分野: 緊急救援・復興支援

実施年: 2024年

支援先:

1. パレスチナ・ガザ地区における子どもの栄養に重点をおいた緊急支援

支援団体: 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター (JVC)

支援金額: 500万円

活動概要: 健診の実施、栄養失調予防用のミルクや高カロリービスケットの配布、現金給付など。

2. ポーランド、クラクフにおけるウクライナ避難民支援事業

支援団体: 特定非営利活動法人 日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)

支援金額: 300万円

活動概要: 隣国に避難している母子たちへの基礎的な食糧・生活用品・学用品の配布、緊急健康チェック費用の支援など。

3. ミャンマーの国内避難民及び地雷犠牲者支援

支援団体: 特定非営利活動法人 地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL)

支援金額: 100万円

活動概要: 戦争・地雷犠牲者への医療サービスと社会復帰支援、避難先での安心できる生活環境の回復支援。僻地への移動診療、医薬品提供、子どもへの補助栄養食配給。地雷による子どもの犠牲増加を受けて、地雷の危険性を周知する教材作成支援など。



子どもに栄養補助剤を与える母親 (© 日本国際ボランティアセンター)

事業分野: 教育・人材育成

事業名: ドリーム・ギフト



ウクライナからの手紙

実施地域: ウクライナ (2024年)

事業内容: 日本の子どもたちが一食実践に取り組み、紛争下で厳しい生活をおくる子どもたちに、心を込めて書いた手紙と彼らが今一番必要としているものをギフトとしてプレゼントする事業です。ギフトを受け取った子どもたちはお礼の手紙を日本に送ります。子どもたち同士の心の交流により、“つながり”を実感できる機会を創出します。

2024年は、ウクライナの子どもたちに、日本の子どもたちから寄せられた手紙1,353通と、献金で購入したタブレット100台をプレゼント。ウクライナ国内で、空爆から逃れて避難生活をする子どもたちは、度重なる停電などで学校に継続して通えていません。タブレットがあればリモート授業が可能になることから、子どもたちの要望を受けて、今年はタブレットをプレゼントすることになりました。ウクライナの子どもたちからは、402通のお礼の手紙が届きました。

～受益者および活動に携わる方の声～

ウクライナの子どもたち

私たちにこのようなタブレットを贈ってください、本当にありがとうございます。どうか私たちのことを忘れないでください。これまで古いパソコンで勉強していましたが、この新しいタブレットのおかげで、宿題も取り組みやすくなり、オンラインでの授業も受けることができます。

日本の子どもたち

世界で苦しんでいる子どものためにどうしたらいいのかと思っていましたが、ドリーム・ギフトがあって良かったです。ドリーム・ギフトに参加してから、ウクライナのニュースをテレビで見ると、自分のお金がここに送られているのだと思い、今まで遠い国でしたが、近くに感じるようになりました。

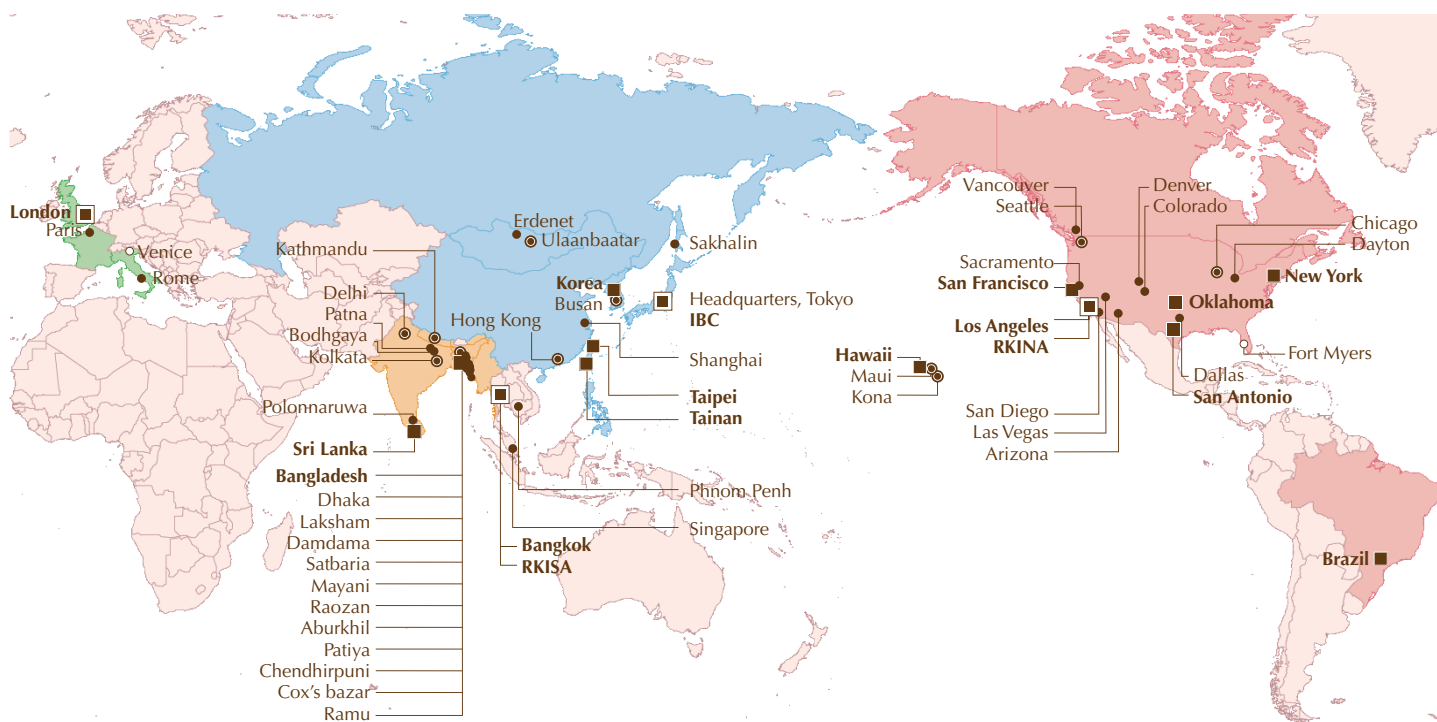


日本から届いた手紙

ギフトを受け取った子どもたち



🌸 A Global Buddhist Movement 🌸



Information about
local Dharma centers



facebook



X

